

平成30年度病害虫発生予察注意報第4号

平成30年8月31日
愛知 県

作物名：キャベツ
病害虫名：シロイチモジヨトウ

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い
- 3 注意報発表の根拠

キャベツほ場に設置したフェロモントラップにおける7月第2半旬から8月第4半旬の総誘殺数が、過去10年と比較して、長久手市及び田原市において最も多く、豊橋市において過去2番目に多かった(図1)。

また、8月下旬に行った巡回調査において、ほ場での寄生株率が1.33%で、過去10年と比較して最も高かった(平年0.03%、前年0.00%)。

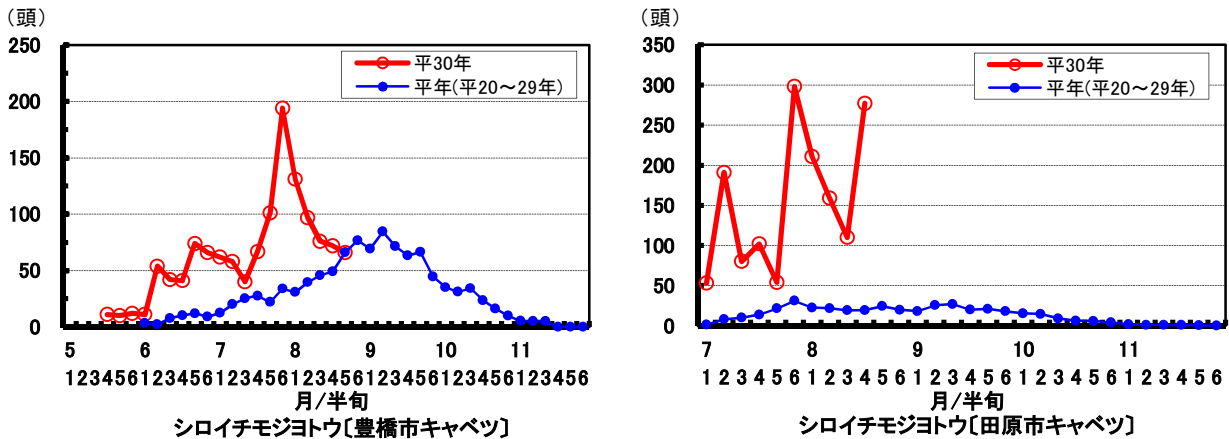


図1 フェロモントラップにおけるシロイチモジヨトウの誘殺数

4 形態及び発生生態

成虫は暗灰褐色、体長約12mmの蛾で、前翅の中央部に黄褐色の円形斑紋がある(図2)。卵は黄褐色、約0.5mmのまんじゅう型、卵塊で産卵され、表面は灰褐色の毛で覆われる。幼虫の体色は多様で、緑色から黒紺色まで個体差が大きい。老齢幼虫になると、腹部の側面の線が白く明瞭になり、気門線の腹縁部が桃色を呈し、体長約30mmとなる(図3)。

ふ化後しばらくは集団で生息し、齢が進むにつれて次第に分散する。成虫は4月から11月頃に、年4~5回発生する。非常に広食性で、キャベツのほか、ハクサイ、ダイコン、ネギ、ハウレンソウなど、50種以上の野菜類や花き類におよぶ。本年はダイズでの生息も確認している。



図2 成虫



図3 老齢幼虫

5 防除対策

- (1) 幼虫の寄生を確認したら、表を参考に速やかに防除する。
- (2) 薬剤感受性が低下しないように、同一 IRAC コードの農薬を連用しない。

表 シロイチモジヨトウに対する主な防除薬剤

農薬の名称	使用時期	希釈倍数	使用回数	系統	IRAC コード
コテツフロアブル	収穫前日まで	2000 倍	2 回以内	ピロール	13*
ゼンターリ顆粒水和剤	発生初期但し、 収穫前日まで	1000 倍	-	BT	11(A)
デルフィン顆粒水和剤	発生初期但し、 収穫前日まで	1000 倍	-	BT	11(A)

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細は、http://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2017/mechanism_irac02.pdf を参照する。

薬剤散布の際は、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

6 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室

電話 0561-62-0085 内線471